



# 一般財団法人 芹沢光治良記念文化財団 ニュース (4)

## “岡玲子様 偲ぶ会” ご報告

令和3年6月6日に逝去された芹沢光治良記念文化財団設立者の岡玲子様を偲ぶ会が 令和3年11月21日にサロン・マグノリアで開催されました。岡玲子様とご縁のあった“芹沢文学愛読者、同級生、フランス語婦人会、財団会員”の方々に午前、午後に分けて総勢60名様のご参加をいただきました。皆様より、玲子様の思い出やエピソードなどを聞くことができ、玲子様を偲ぶ会となりました。

当日は、

受付中には、大きな画面に「岡玲様のフォトアルバム」スライドショー……

BGMには、「岡玲子様のピアノ演奏(CD)」が流れていました。

### ①「挨拶 代表理事勝呂奏」

### ②「心にふれる朗読」

- ・“ピアノを始めた頃” 松岡みどり
- ・“パリ通信 芹沢光治良” 山中一徳

### ③「映像で光治良先生・文子先生・玲子様を偲ぶ」

- ・中野区作成ビデオ “芹沢光治良紹介”鑑賞

### ④「参加者からの思い出のお言葉」

- ・芹沢文学愛読者の方
- ・岡玲子様の同級生の方
- ・フランス語婦人会の方
- ・財団会員の方

### ⑤「財団について 代表理事 勝呂奏」

- ・“これまでの財団・これからの財団”

### ⑥「お礼のお言葉 岡寿里」

- ・参加者には記念品として「岡玲子文集」と寿里様の米国からのお土産と光治良先生のふるさと沼津のお茶(ぬまっちゃ)が用意されました。
- ・コロナ禍の中、多数の皆様が参加くださり有り難うございました。



(岡寿里様)

## “偲ぶ会” を終えて 代表理事 勝呂奏様

12月3日には、芹沢光治良記念文化財団が設立されて満3年目に入る。その日に財団に寄せる思いを語るはずだった代表理事の岡玲子さんは、6月6日に82歳で急逝されて、今はない。その玲子さんを偲ぶ会が、大勢の人たちの開会を待ち望む声に応じて、11月21日に東中野のサロン・マグノリアで持たれた。終息しないコロナ禍にあっての人数を限定した集まりであったが、参会者には改めて玲子さんと向き合う嬉しい機会となった。

会場に流れていたピアノは玲子さんが弾くCD。玲子さんはピアニストであるから、それは当然であるが、聴く人を魅せてやまない響きだった。テレビの映していたスライドは、玲子さんの生涯を教えてくれた。可愛らしい少女時代、ピアノに打ち込むパリ留学中、外交官夫人の頃、マグノリアの会の時期と、歩いた道筋をたどらせてくれた。作品の朗読も素晴らしかった。玲子さんがマグノリアの会で朗読の会を好んで持たれた理由を教えられる思いがした。そして、大勢の友人たちのスピーチは、玲子さんの人となりを、温かな言葉で伝えてくれた。その声には懐かしく耳が傾けられた。

財団の事務局の人たちが入念に準備し、参会者の玲子さんへの思いの寄せられた偲ぶ会は、そこに置かれたグランド・ピアノの前に、いつしか玲子さんその人をお迎えしたように思えた。目をつむると、そこには姉の文子さんも肩を寄せているようだった。そして、目を開くと、父・光治良の優しい優しい眼差しがあった。財団の代表理事を玲子さんから引き継ぐことになった今、僕の心の中で生き続けている玲子さんの思いに応じて行きたいと考えている。財団に連なる人たちの、変わらないご支援をお願いしたい。

## “岡玲子さまを偲んで”

本橋良子様

いつも周りの方にやさしく気を配られながら、サロン・マグリアの  
マダムとしての役割をこなされているお人柄をお慕いしておりました。  
この5月には『孤絶』のことなどで通話し、その後、読了したのでメールで  
ご報告いたしました。6月12日付でした。ところが、それから6日に逝去  
されたという報をうけたので、一驚しました。

昨年3月のマグリアの会で、平素私的なことは話されない玲子さまが、  
珍しくご自身の身体の様子、ご主人の状況やワシントンDCにいられる寿里さんのことを、皆さんの前で  
お話しなされたのが、不思議に想いだされます。

パリで学んだ新進ピアニストとして各国に赴任された外交官夫人として、国際機関で働かれる娘さんの  
教育に、そしてサロン・マグリアの運営に、晩年は芹沢光治良記念文化財団の設立にと最善をつくされて  
きました。ソウルの作家韓末淑先生のご主人黄先生の音楽会では、いく度もご一緒に親しくさせてい  
ただきましたね。ソウルよりメッセージが届きました。

“玲子さんの優しく美しい面影忘れられません。ご冥福を心深くお祈りいたします。永遠に！  
もう、玲子さまのお声が聴けないのが本当に残念ですが、芹沢光治良記念文化財団の  
ご発展を祈念したしております。”



## “岡玲子さまを偲んで”

森菜穂子様

岡玲子先生が夏の初めに天へと旅立たれ、季節も変わり秋になり、冬の気配を  
直ぐそこに感じます。先の財団ニュースを拝読した後、マグリアに殆ど参加して  
おりませんでした私が、のこのこ出しゃばっているのかと逡巡しておりましたが、  
お許しいただき、尊敬する先生の思い出を、ピアノの周りから綴らせて頂きたいと思ひます。

先生の奏でるピアノの音楽が本当に好きで、毎年のサロン・マグリアのコンサートを心待ちにしていま  
した。美しく、心のこもった音、楽譜から立ち登る世界…光、香り、慈しみや色々の感情、アイデア…。先生の  
ピアノからは、いつも違う何かをいただきましたが、常にあった事は、音楽へ、そして人への誠実さではない  
かと思ひ返しています。芹沢光治良先生が、原稿用紙にコツコツと文字をうずめられたように、玲子先生は、  
情熱を持って楽譜の一つ一つの音符を辿られ、ピアノにいのちを吹き込み、演奏されたのだと思ひます。

身に余る幸いでしたが、そんな先生からピアノを教えて頂きました。レッスンでは、時に、先生が指揮者の  
ように音楽の律動を作り、歌ってくださり、先生の存在から、空間に音楽が生まれる瞬間がありました。それは、  
大変幸せな時でした。楽譜からは、驚くほど様々なことを読み解き、示してくださいました。

さて、玲子先生と芹沢文学とピアノに関わる思い出を書きたいと思ひます。  
ある時、コピーの冊子を頂戴しました。沼津の記念館での企画展資料で、『月光の曲』のコピーでした。先  
生の「ピアノを弾くという事がどういう事か分かるかもしれないわよ。」とのお言葉に、帰りの電車からむさぼる  
ように読みました。主人公の少女を通じて、演奏の心が瑞々しくリアルに感じられました。皆様ご存知のように、  
その後『緑の校庭』はステキな表装で復刊され、『月光の曲』を含めた短編たちを一気に読みました。

又、CDの話になった折に、先生が「生演奏に比べ録音は大きな制約がある。それを承知で、ピアニストは  
ベストを尽くす。」とおっしゃいました。そんな会話から少し経って、芹沢先生の生誕120年の映像を拝見した  
時、背景に流れてきた音に、「あ、先生のピアノ！」と気付きました。それは大江光氏の曲で、2018年のコン  
サートで全曲を聴かせていただけました。ありがたいことに、今は、沼津市のYouTube[芹沢光治良ゆかりの  
人・文学]で聴くことが出来、映像の中で玲子先生にも会えます。

もう一つ、ピアノとは直接関係ないのですが、レッスン中にも先生へ沢山のお電話がかかってきました。先  
生が、『芹沢光治良 戦中戦後日記』に向けて、細やかに御準備をされていた事を思い出しますが、私はこ  
の日記に感銘を受け、力を頂き、今の世に出版された事を有難く思ひます。

心温まり、励まされることがあります。無論、先生の長年のご尽力と人徳によってこそですが、マグリア、国  
内外での多くの出版、財団…と沢山のことが、先生の後半生に、世の中に形となりました。そして、先生が蒔  
かれた種子は、これからも色々な花を咲かせ、実を結び、再び種子となり広がっていくよう感じています。私  
も先生が刻んでくださった事を辿っており、この先の人生に生かして歩き続けます。素晴らしい先生に出会い、  
この上なく幸せです。

全力を尽くされ、わたくし達それぞれに大切なものを残して下さった  
玲子先生、本当にありがとうございました。





## “岡寿里様より”

生前、母、岡玲子と親しくしていただき、心から感謝しております。

母は皆様との交流を大変大切にしていました。財団とマグノリア会の皆様、芹沢文学愛読書者の方、フランス語婦人会のお友達、学生時代の親友、芹沢文子を通して親しくしていただいた方、父が外交官の時に知り合った方… 皆様との交流は母の支えであり、生きがいでもありました。ご存知の通り、私は長年海外に住んでいますが、母とは毎日電話で話していました。大概の内容はお集まりの準備や、お会いした事や、ご連絡があった事など、いつも明るい声で話してくれました。

その話しのなかに一つの共通点がありました。それは祖父の芹沢光治良でした。海外、特にフランスとの縁、そしてパリに留学させてもらったのは祖父のお陰だったこと。祖父が応援してくれたため、ピアニストになれたこと。教育、そして常に新しい事を覚える大切さを教わったのはPTAの会長を長年続けた祖父であったこと。母にとって芹沢光治良は本当に大きな存在であり、深い尊敬と愛情のもと芹沢光治良記念文化財団を設立しました。その想いを背景として、今後とも財団の活動を応援していただくようお願い申し上げます。

最後に偲ぶ会と文集を可能とてくださった方にお礼を申し上げます。清水美穂様、朗読をしていただいた松岡みどり様と山中一徳様、そして財団代表理事の勝呂先生、事務局長の池田三省様、事務局の野見山恵美子様、ありがとうございました。

## “岡玲子様 フォトアルバムより”



### 『編集後記』

ある方が岡玲子様についてお話されました。

“玲子様は芹沢光治良の娘として、ピアニストとして、外交官夫人として、世界の方々と交流され、その交流の中で、ものごとを伝承する素晴らしさを学んできました。そういう素晴らしい輪を作って皆さんに伝えてきました。玲子様は、これから未来に向かって芹沢文学の精神を、多くの人に語り伝えていくために財団を残されました。

残された者が、芹沢文学を語り伝えるためには、芹沢作品の一場面でも芹沢文学精神の内容を受け継いで、みんなが、“読んでいける方々”を増やしていくことが、“真の永遠”というものです。”

- ・玲子さんの意志（芹沢文学を未来に受け継いで行くこと）を受け継ぐという事は、今の人達に芹沢作品を読んでいただく、芹沢文学ファンを一人でも増やすことだと思います。 そのために努力したいと思います。

次回発行は、来年の光治良先生のお誕生日頃を予定しています。

現在、「芹沢光治良ノート（2）“巴里に死す”」を製作中です。

※今回、マグノリア会員に登録されていない方にもお送りさせていただいています。よろしければ、会費無料ですので、財団ホームページより登録をお願いします。

発行： 一般財団法人 芹沢光治良記念文化財団  
〒164-0003 東京都中野区東中野5-8-3  
事務局 池田 三省 メール：[serizawa52@nifty.com](mailto:serizawa52@nifty.com)  
財団ホームページ URL：<http://serizawa-kojiro.com>